

農林水産物の生産等概況について

1 要旨・目的

県内産農林水産物の生産及び販売の概況を報告する。

2 現状・背景

—

3 概要

(1) 調査対象

卸売市場、出荷団体等

(2) 調査期間

令和5年6月～令和5年9月

(3) 調査結果

ア 農産物

(ア) 普通作物の生産状況

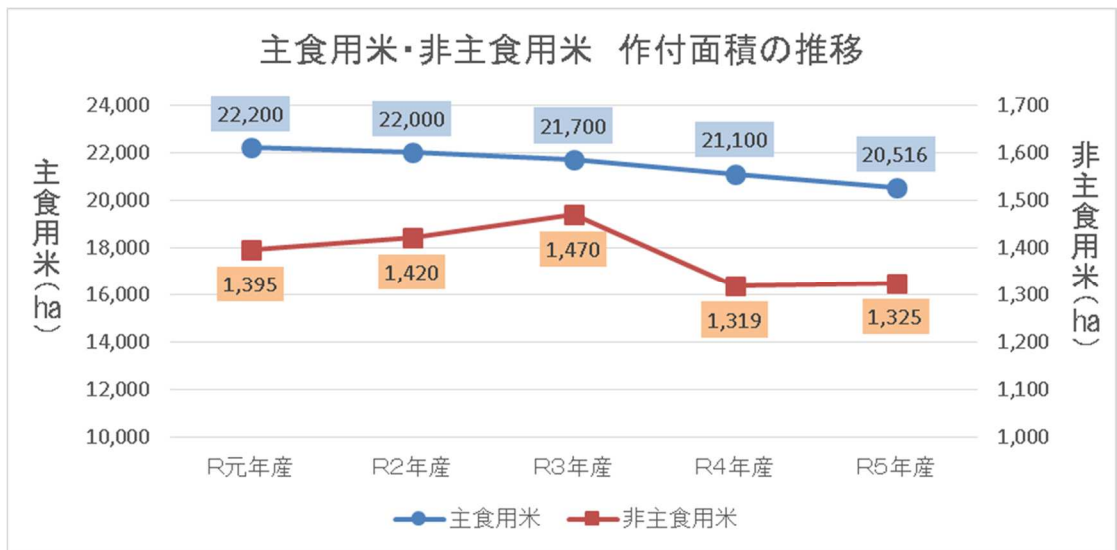
a 水稲

県内の主食用米の作付面積は、前年より約580ha減少し、20,516haと見込んでいる。

9月末現在、早生品種を中心に主食用米の約7割の収穫が終了しており、中生品種の収穫作業が行われている。

作柄・等級は平年並みで、南部の一部地域で高温による品質低下が懸念されている。

非主食用米の作付面積については、前年並みの約1,325haと見込んでいる。



b 大豆

9月末現在、台風等の被害もなく、概ね順調に生育している。

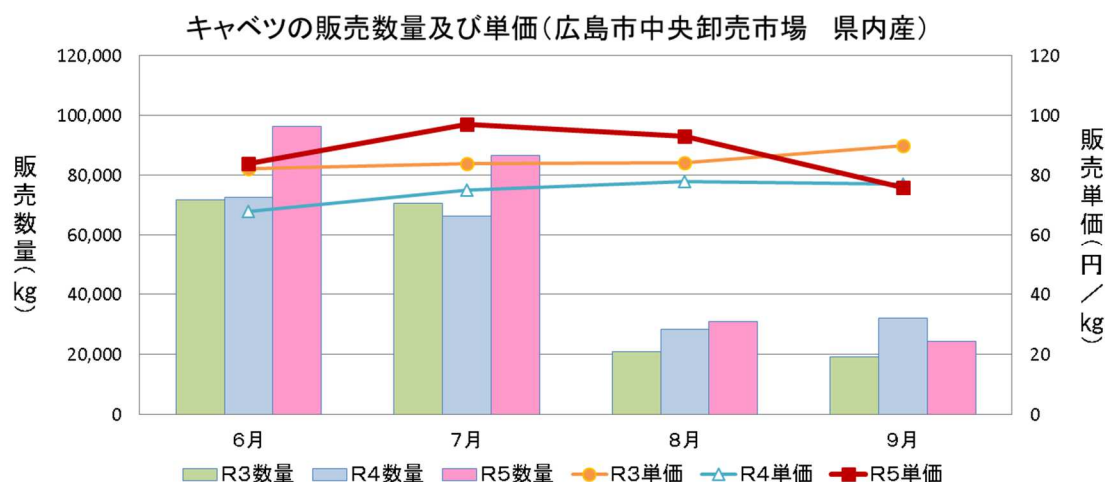
(イ) 野菜の生産状況

a キャベツ

庄原市や北広島町等、主に県北部で生産されたものが流通している。

6月、7月の販売数量は生育順調だったことに加え、大規模経営体が広島中央卸売市場を經由して出荷を行ったため、前年に比べて3割程度増加した。

7月の単価は、6月の豪雨等の影響で他県産の入荷量が減少したことから、前年より2割程度高値となった。8月下旬以降は、適度な降雨により他県産の生育が順調で市場入荷量が多く、価格が落ち着いてきた。

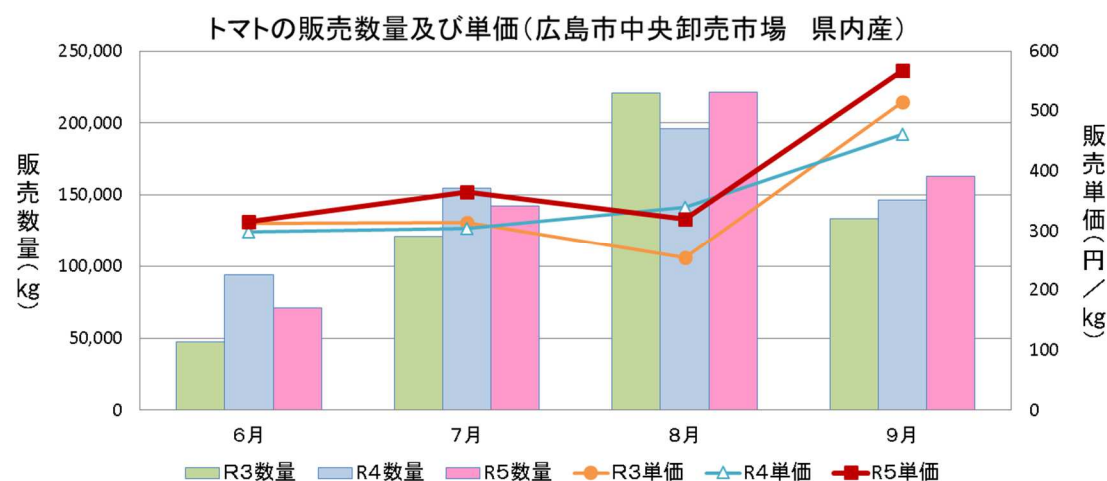


b トマト

神石高原町や庄原市、北広島町等、主に県北部で生産されたものが流通している。

販売数量は、生育期の日照不足により、6月は前年より減少したが、7月以降は生育の遅れを取り戻し、順調に出荷された。

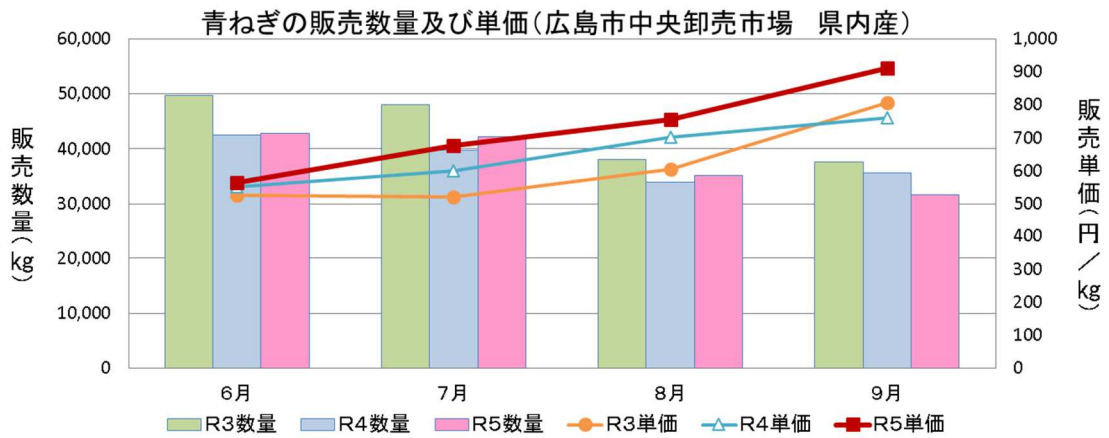
単価は、前年より1割程度高値となった。



c 青ねぎ

安芸高田市の養液栽培や、庄原市等の土耕栽培のものが流通している。

販売数量は、高温による軟腐病等の発生により、平年より1割程度減少傾向で推移し、単価は高値傾向で推移した。

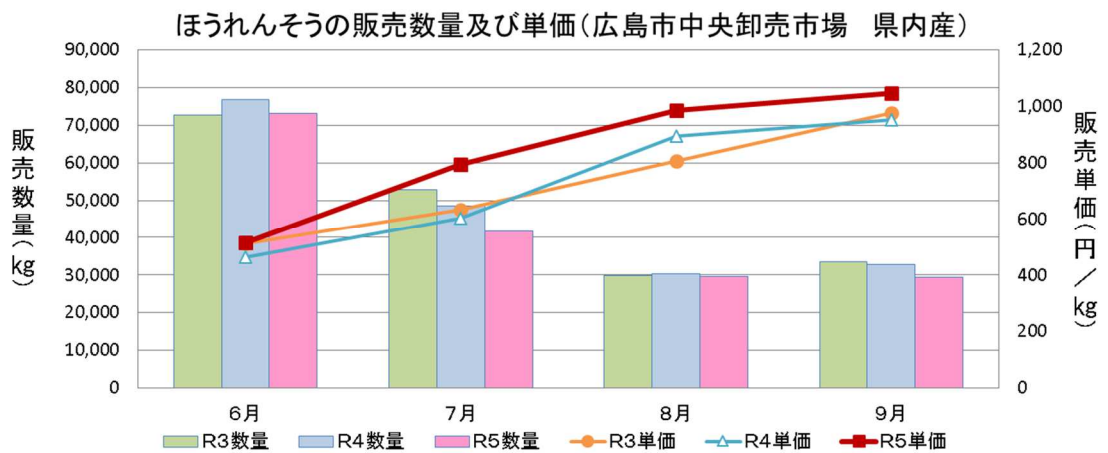


d ほうれんそう

主に庄原市や北広島町等の県北部で生産されたものが流通している。

販売数量は、6月までは生育順調であったが、7月は高温の影響で生育不良となり、平年よりも2割程度減少した。8月以降も高温の影響により発芽不良等が発生しており、この期間を通じての販売数量は減少傾向となった。

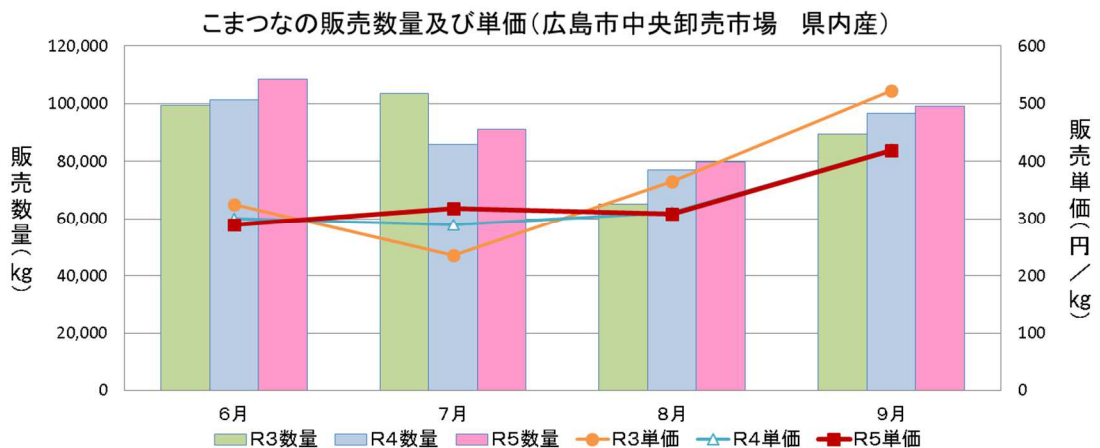
単価は高温の影響で市場入荷量が減少しており、高値傾向で推移した。



e こまつな

広島市、安芸太田町を中心に生産されたものが入荷している。

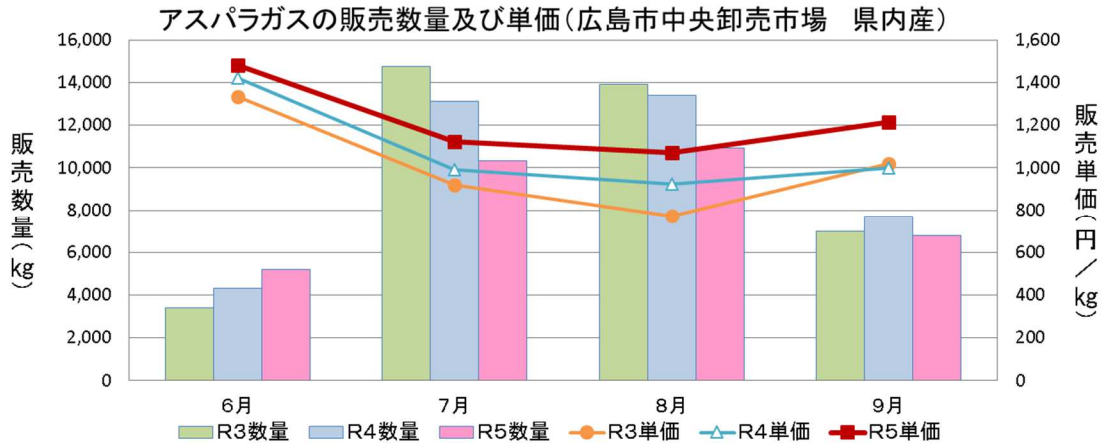
生育は順調で販売数量は平年並みとなり、近年では量販店との契約取引が増えたことで単価が安定してきている。



f アスパラガス

主に三次市や世羅町で生産されたものが流通している。

6月までの販売数量は好天により前年を上回ったが、7月以降は高温少雨による生育不良により、減少傾向で推移し、単価は高値傾向で推移した。



(ウ) 果樹の生産状況

a うんしゅうみかん

極早生の出荷が10月5日から開始された。

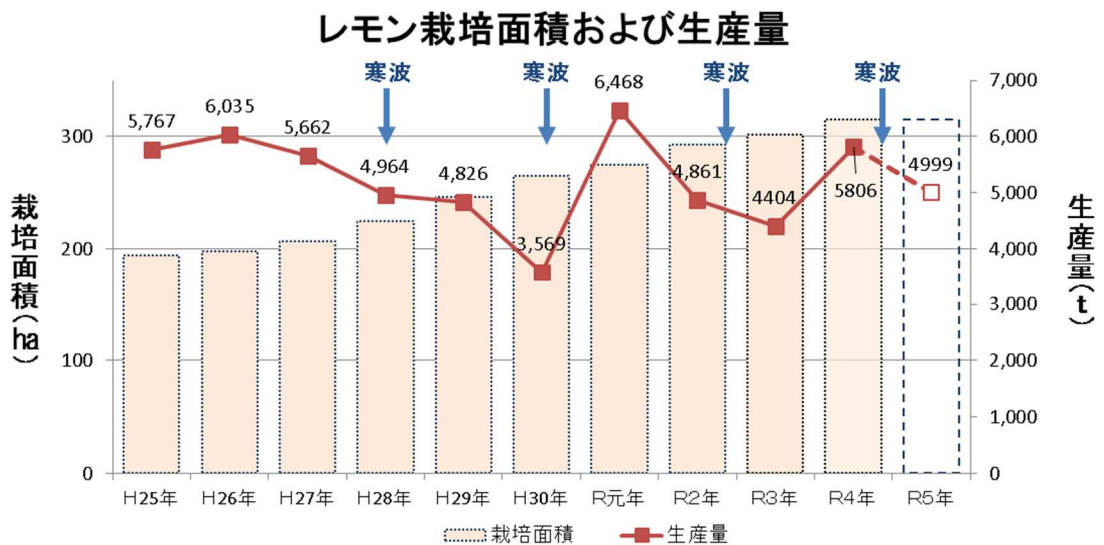
販売数量は、干ばつの影響から果実は平年・前年より小玉傾向であるものの、表年であることから着果量が多く、前年比132%の12,099 tと見込んでいる。

b レモン

ハウスレモンは、6月28日から出荷が開始された。

農業技術センターが研究開発した環境制御技術も普及が進んだことで、9月末までの販売数量は前年比で14%増加し、42 tとなった。

露地栽培のレモンは、10月5日から出荷が開始された。本年産の販売数量は、寒波による樹勢低下を原因として生理落果が多く発生したことや、夏場の高温・乾燥による小玉化により、前年を下回る見込み。



c **ぶどう**

ぶどうの販売数量は概ね平年並みで推移している。

シャインマスカットの販売数量は前年より 31 t (12%) 増加し、単価は前年より 169 円/kg 低下 (▲8.5%) した。

d **なし**

5月の着果量は平年よりやや多かったものの、その後、高温・干ばつによる肥大不良の影響で、幸水・豊水ともに販売数量は前年よりも減少した。

単価は早生の幸水が前年並み、中生の豊水は前年より高くなった。

e **いちじく**

梅雨明け後の少雨・乾燥による小玉果・障害果の発生があり、販売数量は前年比 90% となった。

単価は、販売数量が少ないため、前年に比べて高単価となった。

f **りんご**

着果量が平年並みで、順調に出荷が進んでおり、販売数量は平年並みと見込んでいる。

広島県産落葉果樹の販売状況 (令和5年9月末までの累計 J A広島果実連扱い)

品目 (品種)	販売数量			販売単価		
	t	前年比 (%)	前々年比 (%)	円/kg	前年比 (%)	前々年比 (%)
ぶどう (ピオーネ)	587	99	96	1,588	102	108
ぶどう (シャインマスカット)	290	112	142	1,869	92	84
なし (幸水)	210	63	105	422	96	91
なし (豊水)	314	87	127	469	134	100
いちじく (蓬萊柿)	184	90	103	986	109	95

(I) 花きの生産状況

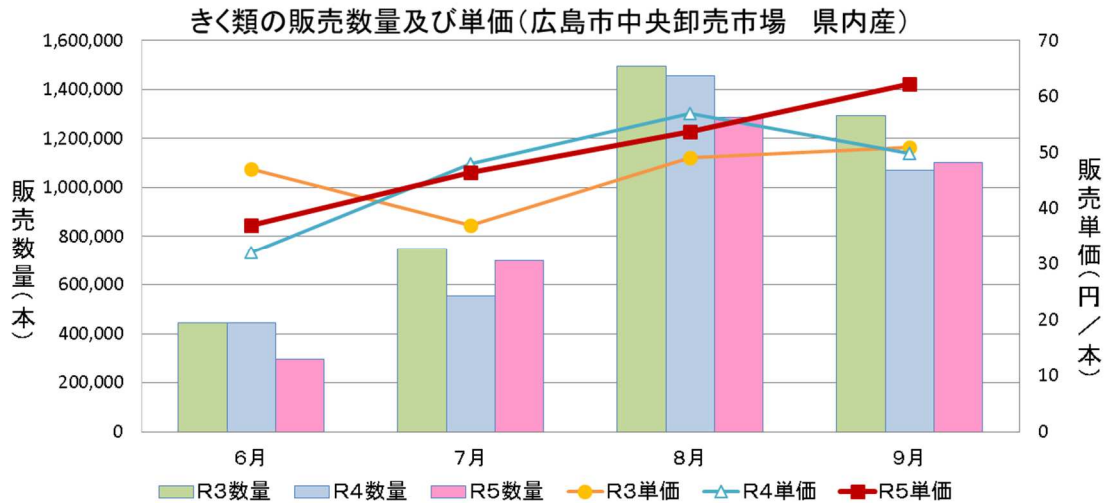
a きく

庄原市、江田島市等から出荷されている。

6月に庄原市東城町の一部ほ場で大雨による冠水が発生し、立ち枯れ等の被害があり、販売数量が減少した。

8月以降の販売数量は猛暑の影響による生育不良等で、減少傾向で推移した。

単価は盆などの需要期に品薄となったため、高値傾向で推移した。

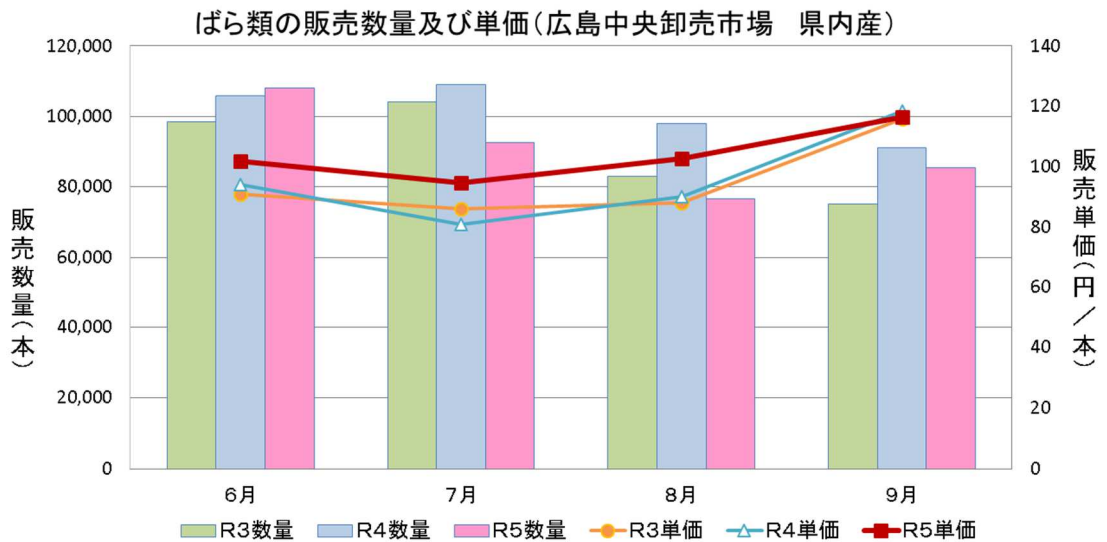


b ばら

主に廿日市市、江田島市、呉市から出荷されている。

販売数量は猛暑の影響が大きく、空調設備を使用しても通常より花卉が少なく、花が小さくなる等の生育不良により、平年より1割程度減少した。

販売単価は平年より1～2割高値傾向で推移した。

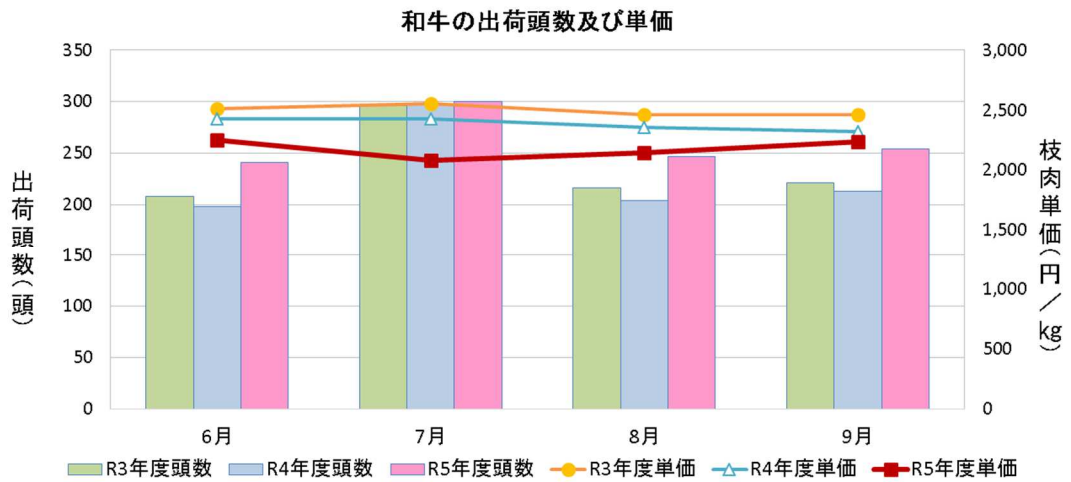


イ 畜産物の生産状況等

(ア) 和牛

出荷頭数は、前年を上回って推移している（前年比 101～121%）。

枝肉単価は、相次ぐ物価上昇による消費者の買い控えにより和牛肉の引き合いが弱くなったことから、前年を下回って推移している（前年比 86～96%）。

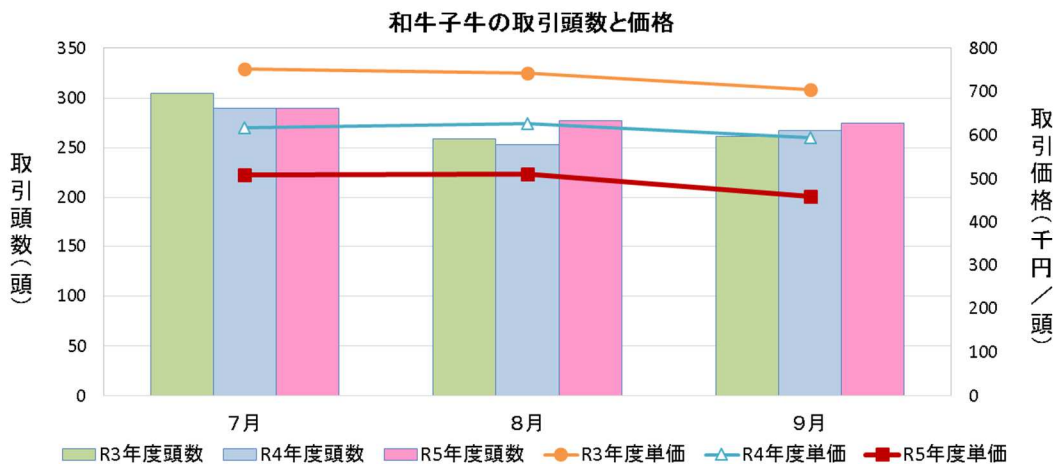


※ 「食肉流通統計」（農林水産省）。直近月は、「食肉市況速報」（（公社）日本食肉市場卸売協会）から引用。
 出荷頭数は全ての和牛（成牛）、枝肉単価は和牛去勢A4でいずれも広島市中央卸売市場食肉市場。

(イ) 和牛子牛

出荷頭数は、前年をやや上回って推移している（前年比 100～109%）。

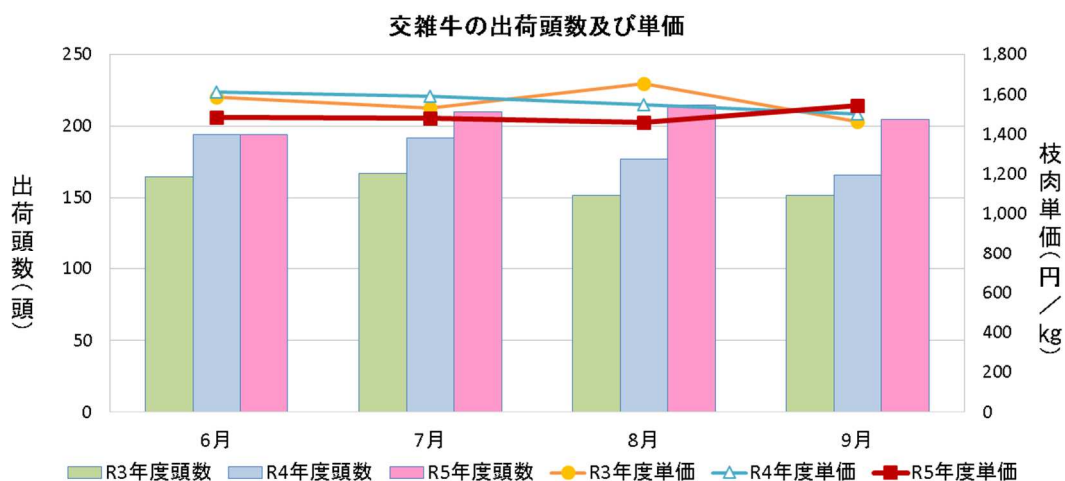
取引単価は、飼料価格等の生産資材高騰や枝肉単価が低下傾向にあることにより肥育経営体の収支が悪化していること等から、前年を大きく下回って推移している（前年比 77～83%）。



※ 「肉用子牛取引情報（独立行政法人農畜産業振興機構）」

(ウ) 交雑牛

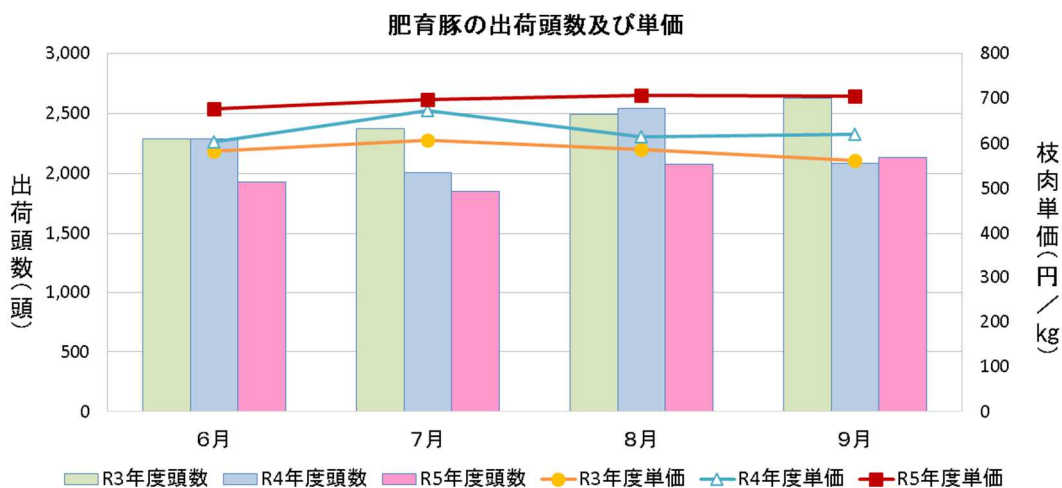
出荷頭数は、前年を上回って推移している（前年比 100～123%）。
 枝肉単価は、前年をやや下回って推移している（前年比 92～103%）。



※ 「食肉流通統計」（農林水産省）。直近月は、「食肉市況速報」（（公社）日本食肉市場卸売協会）から引用。
 出荷頭数は全ての交雑牛（成牛）、枝肉単価は交雑牛去勢 B3 で、いずれも市場食肉市場。

(イ) 豚

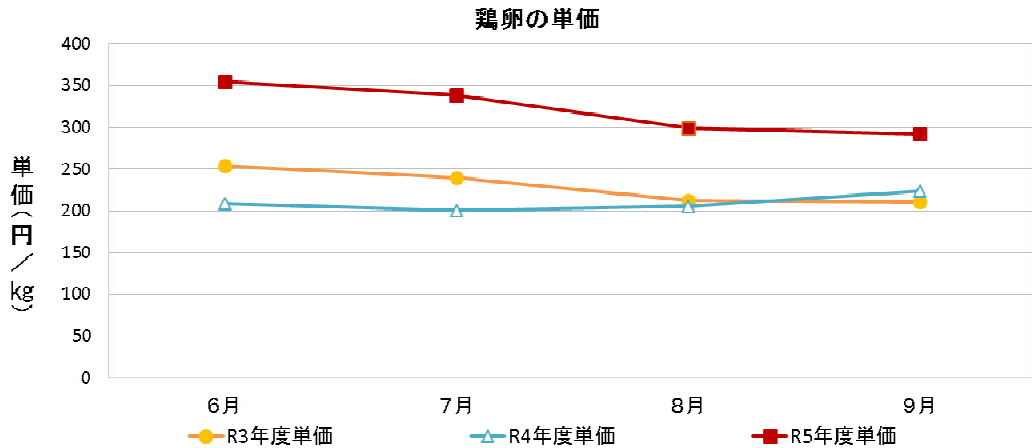
出荷頭数は、6月から8月は前年を下回って推移している（前年比 82～92%）。
 枝肉単価は、出荷頭数が少なかった影響等により、前年を上回って推移している（前年比 104～115%）。



※ 「広島市中央卸売市場食肉市場」の県内産
 ※ 「食肉市況速報」（（公社）日本食肉市場卸売協会）から引用。
 出荷頭数・枝肉単価は上規格で広島市中央卸売市場食肉市場。

(オ) 鶏卵（全農ひろしま M）

鶏卵の単価は、高病原性鳥インフルエンザの発生で減少した羽数が回復傾向にあり、供給量が増加しているため、値下がりに転じているが、需要の高い状態が続いており、依然として高値で推移している（前年比 130～170%）。

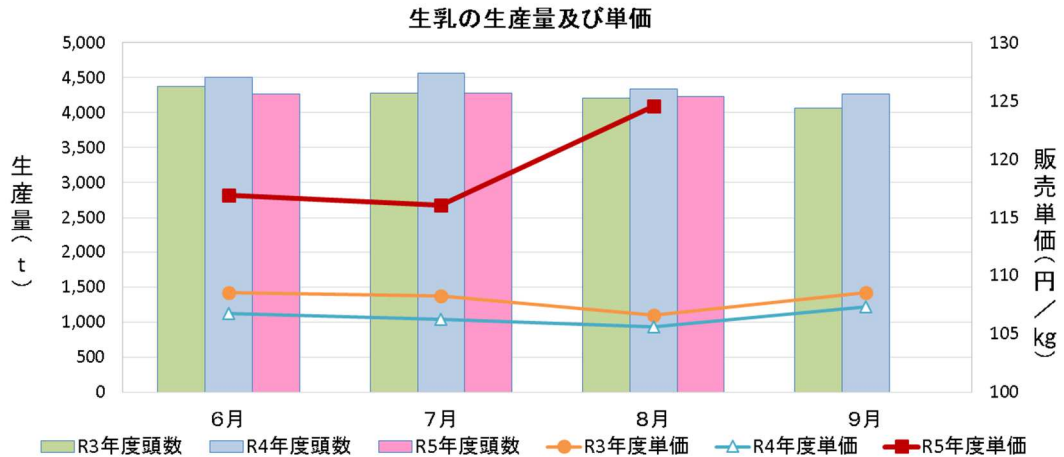


※「全国農業協同組合連合会広島県本部」（M品の単価）

(カ) 酪農

生乳生産量は、前年をやや下回って推移している（前年比 94～97%）。

生乳の販売単価は、飲用向け乳価が令和 4 年 11 月と令和 5 年 8 月に 10 円/kg ずつ値上げされたことを受け、前年より 20 円程度高くなった。



※生乳生産量は、「牛乳乳製品統計」。乳価は広島県酪農業協同組合開取りで手取り乳価。

(キ) 飼料等価格

配合飼料は、穀物相場がやや値下がりしたものの、円安で打ち消す格好となり、令和 5 年 7 月～9 月期も依然として高止まりの状況（全農系）が続いている。

粗飼料については、令和 4 年 11 月をピークとして、その後は値下がり傾向にあるが、高止まりの状況となっている。

ウ 林産物

木材の生産状況

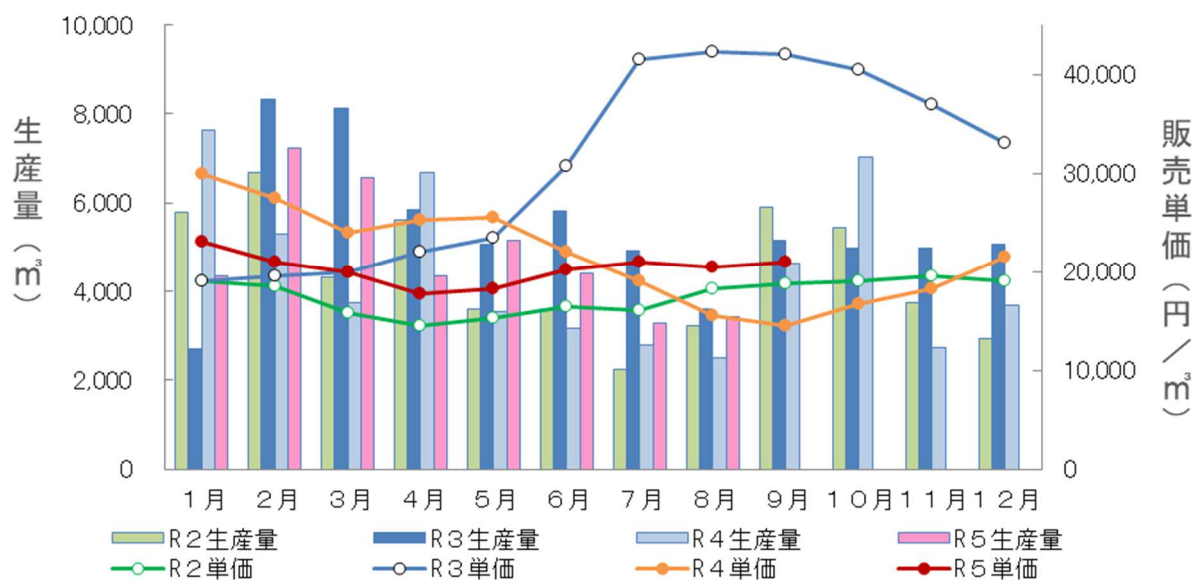
ヒノキの生産量は、県北部で主にヒノキを製材する工場が県産材需要に対応するため製材機械を更新し、4月以降増産体制を取っていることから、前年を上回っている。

販売単価については、県産材の引き合いが強いため、前年に比べ高い水準となっている。

また、令和3年3月の「ウッドショック」以前の令和2年6～9月と比較しても、生産量及び販売単価は高い水準で推移している。

引き続き木材の価格動向等を注視するとともに、流通コーディネーターと連携して需要先を確保するとともに、国の支援策について、関係団体等へ周知を行っている。

ヒノキの生産量及び販売単価



※生産量：県内の森林組合におけるヒノキの生産量（林業課調べ）

販売単価：広島県森林組合連合会三次共販所におけるヒノキの販売単価

エ 水産物

(7) 水温

9月上旬の県内海域の表層の水温は 26.0～29.9℃で、平年差は+0.9～+2.0℃であった。

海 域	広島湾	安芸灘	備後灘
9月上旬の水温	27.6～29.4℃	26.0～27.6℃	27.7～29.9℃
平年差	+1.0～+2.0℃	+0.9～+1.9℃	+1.1～+2.0℃

(イ) 漁獲状況

a 取扱数量

広島市中央卸売市場における県内産の主要な漁獲物 15 品目の取扱数量は、マダイ、サワラ、キジハタ、サゴシなど7品目で平年より増加する一方で、タチウオは減少が続いている。

b 取扱単価

県内産の取扱単価については、15品目全ての魚種で平年を上回った。

広島市中央卸売市場における水産物の販売状況（令和5年8月）

品 目	市 場 全 体						県 内 産					
	数 量			単 価			数 量			単 価		
	t	前年比 %	平年比 %	円/kg	前年比 %	平年比 %	t	前年比 %	平年比 %	円/kg	前年比 %	平年比 %
マダイ	36.5	107	86	845	102	108	19.3	172	170	656	102	110
タコ	14.8	76	40	1,944	124	196	6.8	58	48	1,885	122	185
クロダイ	4.2	75	70	576	162	157	4.0	75	71	586	164	158
サワラ	10.9	120	86	1,300	118	148	1.6	285	278	1,346	134	165
サゴシ	4.4	155	45	1,088	127	179	0.2	171	131	1,173	142	267
シタビラメ	1.6	59	44	1,387	120	156	0.7	84	33	1,429	126	156
スズキ	9.8	152	90	1,335	103	130	3.1	204	101	1,023	106	136
キジハタ	1.9	126	106	2,602	104	114	1.7	170	173	2,538	121	115
カワハギ	4.2	114	28	1,004	110	199	0.9	130	127	1,667	104	129
オコゼ	0.8	98	53	3,636	116	172	0.3	112	54	3,959	120	192
メバル	2.7	87	44	2,253	108	148	1.1	128	42	2,285	106	157
マアジ	53.1	109	78	713	101	136	0.4	184	58	2,025	109	174
アナゴ	22.5	80	77	2,124	102	125	1.3	237	108	2,866	102	173
タチウオ	4.1	53	22	2,391	160	216	0.1	374	2	2,156	104	189
カサゴ	0.7	106	52	1,059	120	124	0.4	68	42	1,016	124	128

※平年値は平成25年～令和4年の平均

c 煮干共販実績

6月中旬から出荷が始まった煮干し（いりこ、ちりめん）については、9月末現在、共販数量、金額、平均単価とも平年を上回っている。

広島県煮干共販出荷実績（令和5年9月末現在累計）

区 分	数量（t）	金額（千円）	平均単価（円/kg）
令和5年度 （平年比）	1,213 （123%）	1,762,262 （186%）	1,452 （152%）
平 年	989	947,859	958

平年値は平成30年～令和4年の平均（9月末累計）

(ウ) 養殖状況

a かき養殖

かきの出荷は、平年並みの10月1日から順次開始されている。
全ての生産者の出荷が出揃うのは11月以降を見込んでいる。
採苗は7～8月にかけて順調に行われ、8月末までに必要量が確保された。

b のり養殖

平年並みの10月3日から採苗が行われている。
「乾^{ほし}のり」としての出荷は、12月下旬を見込んでいる。